

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ご利用者の方へ笑顔で接し、ご利用者の方がその人らしい生活を送れるよう努力している。また基本方針として「地域・家族との絆を大切にします」と謳っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念及び基本方針は、職員が自ら定めたものであり共通の認識を持っている</p>	<p>時間の経過と共に理念や基本方針を忘れることが多いため、全員参加の会議時に復唱するなどして再認識をする</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご利用者と一緒に祭り観賞に出掛けたり、地域の方達と交流するため、施設に来ていただいている。また行事や日常生活の様子を伝えるため、広報を4ヶ月に1回発行している。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>地域の地理的な事、少子化、過疎化・高齢化により日常的な交流は少ないため、地域の方を行事に招くことがある。その際に行事以外の時にも気軽に立ち寄り手欲しいと伝えたりしている。また地域の祭事に可能な限り関わっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を確認し、改善点がある場合には会議を開催し各々の意見を取り入れ改善方法を検討している。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>推進会議委員へ定期的に広報を送付し運営状況を知らせている</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当部署へ運営状況の報告をし、改善点や制度の解釈など詳細な点を確認するようにしている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職場内研修で権利擁護、成年後見制度について学んでいる。</p>	<p>地域権利擁護事業について学んでみたい</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体研修で虐待防止についての研修や会議や職場内研修などを行い意識付けを行っている</p>	<p>何気なく出る言語や行動が相手に傷つけてないかを考えることが必要。また虐待と思われる場面に遭遇した場合には注意をし反省を促すべきではないのか。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>気軽に意見や不満、苦情等が言い出せる関係を作る必要がある。具体的には、家族や利用者に職員が意見や要望、気になっていることを伺う。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>気軽に意見や不満、苦情等が言い出せる関係を作る必要がある。具体的には、職員が意見や要望、気になっていることを伺う。また無記名によるアンケートを実施したい。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>月1回の意見交換であり少ないと感ずる。また必要な事項は、管理者が随時法人へ伝え改善を図っている。</p>
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>施設の特性から異動は極力行わない方針である。また此処1年間離職者は無い</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場内・外研修を実施している。また必要な資格の習得への支援をしている</p>		<p>施設内での研修の機会を増やす。特に実践的な研修を行いたい。</p>
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域同業者との交流は、殆ど無いが、グループホーム協会会議、研修などへの参加はしており、全体の動きは理解できている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間の行事があり、互いに悩みを話し合える場面がある</p>		<p>少人数でありながらコミュニケーションが十分取られていない。これはストレスが増す要因となる。相手の考えや立場を十分理解せず、自分の考えを述べるだけに終わるためと考えられる。より良いコミュニケーションは多くの課題を解決することを理解する必要がある。</p>
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>施設運営を担う一員であることを認識してもらうため各委員会や業務分担、事業計画、報告書の作成を担当することにより意欲の向上に努めているが、管理者と話し合う機会が少ない。</p>		<p>単に与えられた業務として考えることが多いが、なぜこの業務をしているのかを考え行動する必要がある。また個別面談を実施し個々の課題を探る</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時には、必ず家族の要望や不安なことは無いかと聴いている</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所申込時には対象者の状況を確認し、適した施設の紹介と入所時までのサービスの選択への助言をしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>現在の様子等を家族に説明し、家族の意見を伺うようにしている</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>少しでも一緒に過ごす時間を見つけ、時間があれば話を聴いたり、学んだりするようにしている。また一緒に作品づくりやゲームを行い心と心が支えあえる関係の構築に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを聞くようにし、想いに沿う支援をしている		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族には、施設での生活の状況を伝え、利用者の方には自宅の状況等を伝えてもらうようにしている		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事等に参加する機会をなるべく多く持つようにしている。また1度ではあるが行事を利用し遠方の兄弟との面会をした。		
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係を把握し、会話の中になるべく一緒に入るようにしている		利用者同士の会話の中で時々非難されるような時もあるのでなるべく傍にるようにしている。また利用者同士の関係調整について技術的な研修が必要
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約解除者の多くは、他の介護保険施設入所や死亡のケースであるが、施設入所の際には利用者や家族の情報提供をし、疑問点があれば相談する様話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>なるべき本人の生活リズムを崩さないよう努力している。しかし、希望や意向が確認できない利用者の場合は職員が本人の想いを感じ取るよう心がけ対応している。</p>	<p>ある程度利用者とゆっくり話す時間を設けられているが無作為に過ごす時間が多いため、有効な時間となるよう目的を持って会話をする</p>
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用開始時の情報を参考にしたり、今までの暮らしを本人、家族から聞きだし利用者を理解するよう努力している</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>申し送り等で変化があった事は、その日の介護記録等を読み把握する</p>	<p>利用者の「できること」の把握が不十分であり、機能障がいと能力障がいを明確にし適切な援助を図る必要がある。また朝の申し送り内容を改善する必要がある。</p>
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画に沿って統一のケアをする様にしている。カンファレンスを行いサービス計画を作成しているが、家族への説明は職員のみで作製したサービス計画である。しかし、家族への説明時に要望があれば見直しを図るようにしている。</p>	<p>介護する上で計画した時より変化が生じた場合はその都度話し合う必要がある。また全員が参加し意見を出し合い介護計画を作成したい。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に長期、短期目標のサービス計画の見直しを定期的に行っている。また急な変化があった場合には業務連絡で対応し、その変化が一時的なものか長期的なものかを判断し必要があればサービス計画の見直しをしている。</p>	<p>日常の観察を行い、小さな変化でも見逃さないように努力をする。全員が参加して介護計画の見直しをしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録、業務日誌、夜勤日誌等で確認し、日々の様子や変化等を把握し介護計画の見直しを行っているが、実践の結果、気づき、工夫については記録されていないことが多い。</p>		<p>同じような排泄記録が多いため、簡単に記録しその他の記録を分かりやすくする。またその他の記録を忘れず記入するよう努める。</p>
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>外泊や外出への支援として要望があれば送迎体制がとれる。併設の事業所の紹介や見学ができる。看護師の24時間オンコール体制、メンタルヘルス科往診、理学療法士訪問、栄養士の栄養指導が可能である。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地区の代表者が運営推進会議のメンバーとなったり、小学校への訪問を行っているが、ボランティアは本人の意向は殆ど聴くことなく施設の行事に合わせている</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>殆どが施設で提供できるサービス(提供しなければならない)であり、考えられるサービスは医療系であるが、社会資源が制限されたり、無い場合が多い</p>		<p>訪問看護ステーションを利用したいが、現在限られた対象者のみにサービスを提供しており、利用できないが来年度のステーション事業によっては可能となる。</p>
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>施設完結型が多く、包括センターと協働する場面は現在無い</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診を行っており、紹介で専門医のへ受診することもある。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月1回メンタルヘルス科の回診があり、相談できる		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が配置されており、日常の健康管理や通院介助が行われている		自ら健康管理に不安を抱いた場合は、そのままにせず看護職と相談している。
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人の症状や既往歴など説明を行っている。退院時には、退院情報等(看護情報)が発行されそれに沿って適切な医療行為を行うようにしている		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応はしていない		設備や職員配置、医療行為の制限、社会資源が終末期に対応できる状況でないと感じているが、対応するための情報収集に努めている。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設内での設備や人員が重介護や終末期に対応できない		かかりつけ医は5時以降、診療をしていないため重篤になった場合は、救急車で他の医療機関を受診することになり、適切な終末期医療の提供を期待できない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えの際には、利用者、家族の状況、施設での支援経過を伝え、継続した生活ができるようにしている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常に言葉掛けや触れたくないと思うようなプライバシーに関しては周囲を気にしながら行われている。しかし、他者がいる場合でもプライベートな内容を話しているときがある。</p>		<p>何気ない声かけの内容がプライバシーに関わるないようにであっても他の利用者の前で話してしまうこともあるため、常に考えて話をしていく必要がある</p>
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自己決定出来る利用者だけに働きかけている部分が多い</p>		<p>自己決定出来ない利用者に対しても理解できるような支援、心がけがを必要がある。</p>
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>形にはまった業務をすることが多く、利用者一人ひとりのペースに合わせて過ごすという事が少ない</p>		<p>日課を優先せず、一人ひとりのペースに合わせてその日をどう過ごしたいか等の希望を聴いて行く必要がある</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>2ヶ月に1回理髪がある(来所)。服装は季節に合わせて調整するも持っている枚数が限られているため、おしゃれなどはあまり出来ていない</p>		<p>理髪時、利用者の好み(髪型)を聴くようにしている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り利用者に下ごしらえ等をお願いしている。 また味付けもなるべく好むような程度にし味見もして もらっている。後片付け等も行っている。一部自分で調 味料を準備し味付けを自分好みにしている。		限られた利用者だけが手伝っているのもそれ以外の方 にも出来ることを見つけて手伝ってもらえるよう援助 している。
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常 的に楽しめるよう支援している	手作りおやつ日を設け一緒に作り楽しんでいる。また 飲酒される方は本人の希望で飲酒している		嗜好調査を実施している
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用しトイレ誘導を実施している		外出時には日常使用しない利用者に対してリハビリパ ンツを使用
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、その日に拒否などがあれば 翌日に入浴する等している		夜間入浴の希望があれば実施したい。また週4回の入 浴日内で自由に入浴日を選定できるようにしたい。ま た温泉や銭湯を希望する利用者があり、つき1回でも 実施したい。
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応 じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	自由に眠れるよう居室やソファ、畳の間などで休め るようにしている。就寝前にはトイレ誘導を実施して いる		夜間の排泄の回数、就寝時間を申し送り確認でき ている
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	春から秋にかけ、畑を作ったり花壇の手入れをしたり 食材の下ごしらえや清掃などをしていただいているが 集団での行動が多い。一部自分の趣味を行う方は いるものの殆ど個々の趣味活動への支援は出来て いない。		長期的な観察を行い生きがいや気分転換が図れる行 動を見出す必要がある。また意図的に何らかの行動を 促し新たな役割や生きがいを見出すことも必要

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者は、購入したい品物と残金を照合している		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	殆どが行事での外出が多く、その日の希望は取っていない。外に出たがらない		行事等に関係なく天候の良い日はドライブへ出掛ける時間を作るようにしたい。また地域外へ少人数で買い物に出掛けるよう取組みたい
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の機会を増やし、家族の協力もお願いしたい		全利用者が必ず参加できなくても良く、希望者や個人でも行けるようにしたい。また誕生会や施設外行事に合わせて家族へ参加を促して行く。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば常に電話できるようになっている。手紙を出すという習慣は無い		年賀状は家族のみに出しているが、利用者より他に欲しい人がいるかどうか聞く必要がある。家族に協力してもらい電話で話す機会を設けたい。
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は設けていない。また帰る時も再度の面会の依頼をしている。面会の場所は特に設けず、好きな場所で談話していただいている		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修実施(拘束ゼロ)。実際に拘束も行われていない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間のみ施錠しており、日中は行動観察を十分に行い対応している		日中玄関に行き、戸を開けた時はどうしたいのか聴き本人の意向になるべく添うようにしている
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施設全体を見渡せる構造と居室のドアにはマジックミラーをはめ込んでおり居室の様子を伺うことが出来る		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、ナイフは持たせないようにしているがハサミ、針等は理解できる利用者には持たせている。また刃物等を使用する場合は、職員が付き添うようにしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定な方の見守り、または介助歩行、飲食時の見守り、服薬介助及び確認を行っている。また職場内研修や避難訓練を行っている		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が普通救命講習を終えている		救命講習は終えているが訓練は定期的に行われていないので年1回～2回程度必要と思われる
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施と地域消防団との連携、併設の事業所への通報システムにより応援が可能である。また地域の消防団員が地域の行事に合わせて年1回施設を訪問し状況を確認している。		併設の事業所が地元との防災組織を構築しており活用可能である

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		<p>日中、夜間に関係なく看護師に連絡をしている</p>
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>薬の目的や副作用、用法、用量については説明書を確認したり看護師に確認している。</p>
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>便秘体操を取り入れたい</p>
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>定期的献立を栄養士が確認する必要がある</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会を設け、職場無い研修を実施している。感染症マニュアルを作成		外出後のうがいは必ずうがい剤を使用し行っている。手すりやドアノブ毎日ハイターを使用し除菌している
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒日を週1回の曜日を定めて実施している。食材は、週2回発注し新鮮さと安全な物を購入するようにしている。		食材の後入れ、先出しを心掛けている。まな板、包丁は毎日ハイター消毒を行いたい。また冷蔵庫が1台必要
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇の整備や自動販売機を設置し、一休みできる工夫をしている		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせ装飾を変えている。共有スペースの換気扇の音を不快に感ずることがある。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席が決まっているため、常に自分の場所だと思いい他の利用者が座ると怒って非難される事がある。		食事以外は居場所を特に決めていない事を意識付ける必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族や本人に話はあるが、好みの物を持って来る事は少ない。家族の写真等は持ってきて飾っている。居室にクローゼットが設置されており、最低限の持込となる。位牌を置いている利用者の方は、職員の声がかけて毎朝手を合わせる事が習慣となっている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室の窓を開ける等行い、換気に努めている。また各居室に温度計を設置し居室の温度は知ることが出来る</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>身体機能に応じ、利用できるトイレや手すり、浴槽への昇降階段、車椅子が利用できる廊下幅となっている。一部に電動ベットを置いている。建物の構造的に改善は難しいが、洗濯室の入り口は車椅子が通れる幅ではない。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>1ヶ月の予定表を見やすい場所に数箇所掲示している。各居室にカレンダーを配置している</p>		<p>見当識障害方への配慮がなされていないため、トイレや自室の場所をより分かりやすくする必要がある。時間がわかるよう各居室に時計を置きたい。分からない部分を職員が先に示すため、自ら理解しようとする努力を妨げている事もあるため、気を付ける必要がある。</p>
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物内部、外部とも利用者自身で楽しむことが殆どなく、また職員が積極的に利用者に活動できるよう働きかける機会が少ない。</p>		<p>居室や共有スペースの飾り付け等を自ら行う事への援助が必要</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特に特徴的な実践はしていないが、利用者、家族が安心して任せられる施設運営を目指している。併設の特養の施設機能を利用したり、メンタルヘルス科、理学療法、栄養指導等の協力が容易に得られる。